

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道栗山高等学校長
駒井 信 和

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 基礎・基本の学習の定着を確実に図り、自ら学ぶ姿勢と意欲を向上させる。 (2) 基本的生活習慣を確立し、粘り強く努力する精神と豊かな人間性を育てる。 (3) 豊かな心・健やかな体を育成し、資質・能力を高め、自己実現を支援する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育目標・学校評価	・教育目標の設定については、概ね理解されているが、教職員の協働体制や情報共有において不十分な面がみられ、学校全体で取り組む姿勢があまりみられなかった。 ・令和の新しい学校教育を踏まえた改善に継続的に取り組む必要がある。特に、ICT機器の運用能力や働き方改革の推進等をさらに推進させる必要性がある。	・教育目標が生徒の実態、地域等の要望を踏まえている等、良好な評価を得ている反面、自己評価が昨年度より低下している部分は改善が必要である。 ・職員の定数減に伴い、教員の仕事量の平準化が課題であるとともに働き方改革を継続的に進める必要がある。 ・HPの掲載や更新の工夫が必要である。
改善方策	・今年度も働き方改革を進めてきたが、次年度も積極的に進める。 ・次年度も職員が大きく入れ変わるため、ICT機器を使った研修を定期的に行う。 ・北海道介護福祉学校等と連携し、福祉教育の充実を図り、信頼される学校づくりを推進する。 ・職員でスクールミッションを共有し、教育目標の実現に向けた協働する力を向上させる。 ・分掌主体業務とプロジェクト型業務を両立し、業務の平準化を図るとともに、働き方改革を推進する。	
教育課程・学習指導	・校内研修を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は概ね実施できた。 ・新しい学習感に基づいた「指導と評価の一体化」を更に深める必要がある。 ・ICT機器の利活用に関する研修を継続し、授業改善を図る。	・「令和の日本型学校教育」の実現に向け、ICT機器の運用能力を義務教育学校と連携を深める必要がある。 ・ICT機器の導入における利活用の工夫改善が必要である。 ・栗山塾ではヤングケアラーについて深く学ぶ機会となり、生徒の取り組みは非常に良かった。
改善方策	・「令和の日本型学校教育」を念頭に置き、相互の授業参観や研修を通し、授業改善を行う。 ・スタディサブリを効果的に活用するために、研修の機会を積極的に設ける。 ・ICT機器を積極的に使用し、生徒の実態に応じた授業の工夫を継続する。	
進路指導	・大学進学者は増加し、今年度は国公立大学への合格者も輩出した。 ・生徒の特徴や適性を見極め、進路情報を提供し、多様な進路希望の生徒に対応している。 ・保護者に向けた情報提供の機会が不足していると感じられる。	・本校の進路活動に対しては概ね良好な評価を頂いている。 ・就業前職業ガイダンスは進路選択の上で有効であるが、工夫と改善が必要である。 ・具体的な改善方法の一例を掲載すると評価しやすくなるとの指摘を頂いた。
改善方策	・次年度以降スタディサブリの活用方法について更なる研修を深め、国公立大学に挑戦する生徒の実力を養成する。 ・ホームページや一斉メール配信システムを活用し、保護者向けに進路情報を積極的に配信する。 ・保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。	

生徒指導	・学校全体で生徒指導に取り組むための仕組み作りや見直しが必要であった。指導の統一性をさらに図る必要がある。 ・生徒会活動を通して、豊かな心の育成が図られている。 ・教育相談週間や高校生ステップアッププログラムの導入及び校内研修、傾聴活動等により、教員の生徒理解が進んだ。	・いじめ防止に向けた取組の充実、校内体制の整備が求められる。 ・職員間の連携（対話）を図っていく必要があり、特に生徒指導部の先生方と管理職の支援に期待する。 ・いじめの防止には子どもたちの心が健やかに育つことが何よりも大切なことであり、相談しやすい学校（教職員）の雰囲気醸成が必要である。
改善方策	・生徒指導部を中心に、教職員の共通理解に基づく、統一した指導の徹底を図る。 ・保護者や関係機関との連携を密にし、問題の早期発見に務める。 ・高校生ステップアッププログラムやコグトレを継続し、コミュニケーション力の育成を図る。 ・生徒会活動を活性化し、学校行事等を通して自己肯定感の育成を図る。 ・保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。	
保健管理	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、消毒液等は配置されており、継続的に指導している。 ・保健だより等が定期的に発行され、周知が徹底されている。また、「健康かわら版」をGoogle Classroomを活用して、教職員に周知している。	・生徒の心身の健康の保持増進について、取組の継続が期待されている。 ・保健だより等により周知が徹底されている。 ・学校前庭の管理が不十分である。
改善方策	・校舎周りの整備管理を徹底する。 ・「保健だより」を学校運営協議会で配布し、具体的な取り組みを明確化する。 ・保護者アンケートの低評価部分の改善を継続的に行う。	
安全管理	・危機管理マニュアルの見直しを行い、危機管理体制の整備を図った。 ・教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組は予定どおり実施できた。	・生徒の安心・安全を優先した安全管理の取組が継続されている。 ・危機管理マニュアルの見直しを行い、職員の危機管理意識の高揚を図る。
改善方策	・危機管理マニュアル等の定期的な見直しを行うとともに、教職員への周知を徹底する。 ・教職員・生徒の安全対応能力向上を図る取組を継続する。	
特別支援教育	・特別支援委員会が円滑に機能し、必要な役割を果たしている。 ・生徒の特性に応じて、計画的な支援体制をとり、継続的な支援を行っている。	・町の特別支援教育推進協議会との連携が、引き続き求められている。 ・具体的な取り組みについて、個人が特定されない範囲で、示して欲しい。
改善方策	・関係機関との連携を図りながら、校内体制の整備と教員の専門性向上を図る取組を進める。 ・生徒数の増加により、保護者への発信・説明が重要となるため、保護者との連携を深める。	
組織運営	・管理職からの日常からの声かけや日報による情報提供等により業務上の報告・連絡・相談がしやすく、円滑な学校運営ができています。 ・時間外勤務縮減週間の導入や教職員の働き方改革への意識が向上し、時間外勤務が改善されてきている。	・間口維持に向けて、地域に根ざした高校づくりが、より一層求められている。 ・職員数の減少を念頭においた効率的な学校運営が求められている。 ・働き方改革の促進については大変評価できる。
改善方策	・効率的な学校運営を行う事により、教職員数の減少に対応する。 ・分掌及び部活動の校内組織体制の見直しを進め、効率的な学校運営を継続する。 ・ICT化やペーパーレス化を推し進め、働き方改革を促進する。	
情報提供	・学校HP運営の校内体制の充実を図る。 ・安心メールの導入により、生徒及び保護者に適宜必要な情報が提供できた。 ・町の広報で部活動や生徒会の生徒の紹介を毎月実施できた。来年度も継続する。	・学校HPの更新向上が求められた。 ・引き続き、学校の取組を積極的に発信し、地域にアピールしていくことが期待されている。 ・HP上の古い情報のアーカイブ化を進め、見やすく利用しやすい、工夫が必要である。
改善方策	・情報処理委員会の積極的な活用及び運営を行う。 ・相互の授業見学や積極的なICT機器研修を行い、教職員の授業改善を促進する。	
公表方法	(1) ホームページへ掲載する。 (2) P T A 総会において説明する。	

3 添付資料

(1) 外部アンケート結果

① 令和5年度 生徒アンケート集計

② 令和5年度 保護者アンケート集計

(2) 令和5年度 自己評価のまとめ

(3) 令和5年度 学校関係者評価まとめ